

豊かな“生物多様性”を目指して 私たちにできることを考えよう



島田谷津 初秋の風景

地球上にはさまざまな生物がいて、山や森、川などで、互いに共存・競合し、バランスを保ちながら生きています。このように、生物同士がつながりを持ちながら存在していることを生物多様性と言います。

私たちの生活に欠かせない衣食住や文化などは、あらゆる面で生物多様性に支えられています。豊かな恵みを次世代へ引き継ぐために、私たちにできることを考えてみませんか。

生態系を大きく変えてしまう 外来生物と特定外来生物

外来生物は、国内に2,000種以上。それらが在来生物を食べたり、競合、繁殖したりして、生態系を大きく変えてしまうことが問題になっています。その中でも特に繁殖力が強く、生態系や生活環境にさまざまな被害をもたらすものを「特定外来生物」と言います。国内では148種が特定外来生物に指定され、法律により、飼育や運搬、譲渡、野外に放すことが原則禁止されています。違反すると個人の場合、懲役3年以下もしくは300万円以下の罰金、法人は1億円以下の罰金が科せられます。特定外来生物の情報提供は、千葉県生物多様性センター☎043-265-3601へ。

私たちにできること

①動植物の持ち込みや持ち出しをしない 外来種のペットを自然に逃がしてしまうと、そ

の地域の生態系に悪影響を及ぼします。

②野生動物をむやみに触らない 野生動物の中には、毒などを持つ危険なものもあります。渡り鳥などに餌を与えることも控えましょう。

③ごみをポイ捨てしない 道路や河川敷にごみを捨てると、野生動物が餌と間違えて、誤飲・誤食し死んでしまうことも。捨てられた釣り針や糸などに絡まりけがをすることもあります。

谷津・里山が環境学習の場に

市の北部に残る「谷津・里山」には下総台地の緑豊かな自然が広がり、かつては薪や炭、肥料などの提供の場として、人々の暮らしと密接につながっていました。しかし、生活の変化や土地所有者の高齢化などで管理されないところが増えています。荒廃した谷津・里山は、地域固有の動植物の減少を引き起こします。また、農作物に被害をもたらす有害鳥獣などのすみかになったり、ごみを不法投棄されたりしています。これらを解消するため、市では23年3月に谷津・

里山保全計画を策定し、取り組みを進めてきました。土地所有者や地域住民が荒廃を食い止めようと里山整備活動を展開し、整備された里山は、環境学習や憩いの場にもなっています。中でも「島田谷津」と「ほたるの里」は、環境省の「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定されています。

里山整備ボランティアに参加しませんか

市では、里山整備ボランティア人材育成講座“里山楽校”を秋から冬頃にかけて開催しています。里山整備のための知識やチェーンソーなどの道具の使い方や竹垣作りなど幅広く学びます。卒業生は、市内の里山で保全活動をしています。今年度も、18歳以上で講座終了後市内で里山整備活動をしたい人を対象に全5回の日程で開催予定です。詳しくは、環境政策室へ。



市内で確認されている 特定外来生物を見てみよう

1. カミツキガメ

北米から中米原産のカメで、印旛沼流域で多く発見されており、市内でも29年度には6匹捕獲されています。鋭い爪を持ち、あごが強く

危害を与えられると感じたときに噛みつく特性があります。5～6月の産卵期は非常に攻撃的になります。手を出したり、無理に捕まえようとせず、環境政策室または八千代警察署へ連絡してください。

2. ナガエツルノゲイトウ

南米原産の多年生の水生植物で、桑納川や神崎川などで見つかっています。洪水時には大和田排水機場の排水運転に支障をきたすことも。そのため、27年度より官民学と協働で駆除作業に取り組んでいます。



4月～8月で約13t駆除しました

以前は観賞用水草として販売も



4. オオキンケイギク

北米原産の多年草で、観賞用や緑化用のものが野生化。道端や河川敷などで見つかっています。見つけたときは、①根を残さないように引き抜き、その場で2、3日間日光にさらして枯らす。②周囲に残さず拾い、可燃ごみで出す。周辺にはたくさんの種子が含まれています。移動して拡散させないようにしてください。

3. オオフサモ

南米原産の多年生の水生植物で、農業用水路などで見つかっています。希少種を保護するために、市民ボランティアと協働で駆除作業を行っています。



5月頃から花を咲かせます

お問い合わせは、
環境政策室 ☎483-1151(代表)へ

広告